

「大腸疾患アトラス」

長 廻 紘 (東京女子医科大学消化器内科)

竹 本 忠 良 (東京女子医科大学教授)

北里大学教授 岡 部 治 弥

この本は、その序文の中で著者自身で述べられているように、「内視鏡を中心とした……特徴のある……図譜」そのものといって良い。

その特徴としては、Ⅰ章からⅢ章までの大腸疾患に対するX線検査、内視鏡検査の実面的な面に対する解説においても、その後の症例の章での各疾患についての解説においても、その記述は少ない頁数の中に要領良く、わかり易く述べられていることが先ず第1にあげられる。さらにこの解説の内容として、Ⅰ章からⅢ章においては、各検査法の位置づけ、(すなわち、目的、適応、禁忌

など)に対する著者らの明確な判断が述べられていること、疾患の解説においては、その疾患の位置づけ、

(すなわち他疾患との鑑別あるいは異同など)と、これ等疾患の経過中における各検査法の持つ意味、とについても、著者らの明快な見解が述べられていることが、もう一つの特徴としてあげられる。

さらに、アトラスという名称本来の意味では、図、シェーマなどが豊富に、しかも要領よく配置されているのが次の特徴としてあげらる。各図に附けられた説明が簡略で、図譜の部分は次々に頁をくって行っても

X線像、内視鏡像、肉眼所見、組織像と、その配置に応じて、目の流れはほとんどよどむことなく、その疾患において認められる大腸の形態的な変化を、目の底に焼きつけることが出来るといえる。

この本の大きさ、厚さとも手頃で読了するのにさして時間がかからないのも一つの特徴といえるかも知れない。先ず一読することをおすすめしたいが、この本の真の利用の仕方としては、座右に置いておき、大腸疾患を有する患者の日常の診療の中で参考とするのに良いのではないと思われる。そして、この本の内容以上の詳細を知る必要が生じた時には、209におよぶ文献を参考し得るように構成されており、実地医家に限らず、消化器疾患、特に大腸疾患に興味を有する医師全部にとって極めて便利な手引書といえる。

医学書院刊

B 5 頁 202 図 114 写真 143

原色図 107 ￥ 13,000 丁 240